

ウチダ校務支援システムのご紹介

—教員一人1台PC環境下でのICT利活用の促進を目指して—

株内田洋行 教育システム事業部ソリューション&サービスビジネス部 担当課長 島田 誠
shimada@uchida.co.jp

キーワード：教員のICT利活用促進、校務の情報化、ポータル、校務支援システム

1. はじめに

補正予算等でPC整備も鑑み、教員一人1台のPC環境が実現され、今後ますます校務でのICT利活用が望まれています。例えば2010年に発表された「教育分野の取組工程表」では、2020年までに「すべての学校に校務支援システムを普及」とあるように、今後教員の負担が多い校務分野においてICT化はますます促進されると予想されます。

2. ウチダ校務支援システムの特長

そのような背景のもと、60年にわたり教育現場をサポートしてきた内田洋行では、職員室で行う校務がすべてPC上で行え、初心者にもわかりやすい環境整備のための校務支援システム「デジタル職員室」「デジタル校務」を製品化いたしました。「デジタル職員室」は、教員の方々が一目でわかりやすく運用できるように個人予定、職員予定、行事予定、掲示板など教員の方々が日々、職員室で行っている情報共有グループウェアをデジタル化したもので、「デジタル校務」は教員の負担が多い成績や出席管理、通知表といった校務処理の負担を軽減するために、蓄積教務を効率化するために、学校現場にマッチしたシステムでご提供できる校務ソフトです。どちらのソフトも教員の皆様がすぐに利用できるよう使い勝手を第1に考え、わかりやすさ・使いやすさにこだわり製品化いたしました。

2.1 教員PCの窓口となる「デジタル職員室」



写真1：デジタル職員室

○「使いやすい」「わかりやすい」画面構成

教員の方々が日常的に利用するWebアプリケーションや便利なツールを揃えたポータル環境（総合的な窓口）を用意。例えば、一目で一日の予定を確認できるトップメニューや、ワンクリックでWebアプリケーションに接続できる教材研究メニュー・校務メニューなど「使いやすい」「わかりやすい」操作環境を提供いたします。

○日常的に利用する便利ツールを用意

日常的な連絡事項としてグループウェア機能（掲示板・お知らせ・行事予定・職員予定・時間割の表示）のほか、時計、付箋、インターネット上の記事の確認など、便利なツールが揃っています。また、教材研究等に利用できる2,700種類にも及ぶ小中学校向けの教科別テンプレートを装備してます。

○いろいろなWEBアプリケーションとの連携が可能

システムのエンジンとしてMicrosoft Office SharePoint Serverを採用し、ポータル・グループウェア・SSOなどの優れた機能を提供します。またSSO（シングルサインオン）技術を使って一つのID・パスワードを使って各学校や教育委員会のサービスなど他のアプリケーションに簡単にアクセスできます。

2.2 教育現場にマッチした「デジタル校務」



写真2：デジタル校務

○教育現場にマッチしたシステムです

学校現場を分析し、現行の手書き処理の中から共通的にシステム化メリットがある範囲を対象にしました。導入後すぐに違和感なく利用可能で、現場で使えるシステムです。

○使いやすさにこだわりました

画面入力の簡易化を追求。ワンクリック方式により入力の手順を大幅に削減します。

○学校で変更可能なシステムです

各種名簿類や通知表など学校ごとに独自性が求められています。個別に要件が発生する部分については、お使いになっている先生方で変更可能な仕組みを実現しています。

○センター版の一元管理システム

情報は、センターのデータベースで一元管理されます。自治体で導入した場合は、その自治体内の学校間で転校した児童・生徒は、基本情報や健康診断情報などが転校先学校に引き継がれます。また、自治体の小学校から中学校へ進学した場合も同様に情報が引き継がれます。